


ともしびのつどい

ねらい	(1) セレモニーやレクリエーションに集団の一員としての自覚を持って参加させることにより、けじめや連帯感を身につけさせるとともに、参加者一人一人に自己を見つめさせ、希望を持たせる。 (2) ゲームや出し物を通して、レクリエーションの楽しさを味わう。	
費用	ろうそく代1人5円	
対象・人数	小学生以上・200人程度	
場所	プレイホール	
準備・用具	<ul style="list-style-type: none"> 借用できる用具：燭台、ろうそく（大、小：人数分）、シート、着火ライター、CDデッキ、CD 団体の準備：セリフのカード、懐中電灯 ※ 営火入場から退場までのリハーサルを当日の夕食前に実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 電動カーテンを閉める。 ② シートを中央に置き、燭台を置く。 ③ ろうそく（大、小：人数分）を確認する。 	
必要な係	営火長1人、親火1人、子火4人、進行係	
隊形		
実施方法	<p style="text-align: center;">【内 容】</p> 関係者リハーサル 〈第1部迎え火のつどい・20分〉（静） <ol style="list-style-type: none"> 1 開会のことば 2 営火入場（BGM）〈選曲自由〉 3 ともしびに捧げることば（親火） 4 誓いのことば（親火から子火へ） 5 燭台へ点火（親火、子火） 6 迎え火のことば（営火長） 7 分火（係から全員へ） 8 司会者からよびかけ（ともしびを消す） 〈第2部交歓のつどい・45分〉（動） 班別の出し物 レクリエーション・ゲーム・ダンス等 〈第3部送り火のつどい・15分〉（静） <ol style="list-style-type: none"> 1 送り火のことば（営火長） 2 納火 3 司会者からのよびかけ 4 閉会のことば 	<p style="text-align: center;">【留 意 点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に合わせて、親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順で入場する。 ・ 分火の時は、火をもらう方がろうそくを傾けるようにする。 ・ 床にろうそくが垂れないように留意する。 ※ 広くホールを使う場合は、中央燭台の火を消し、プレイホールのすみに移動する。 ・ みんなで楽しく活動し、交流を深める。 ※ 燭台を中央に移動し、ろうそくに火をつける。 ・ 自己を見つめさせる機会にする。 ・ 閉会后、燭台等を片付ける。

ともしびのつどい（展開例）

<第1部 迎え火のつどい>

- ※ 参加者入場（静、動、静の流れについて、事前に十分指導しておく）
静かに燭台を丸く囲む形で入場する。「一重の円」<50人<「二重の円」
係は器具庫1で待機。親火だけ火をつけ、電灯を消す。

1 開会のことば（曲（「遠き山に日は落ちて」を流してから）

「ただいまから、（ ）のともしびのつどいを始めます。」

2 営火入場

「営火入場」

・親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順

「営火長は、点火の合図をお願いします。」 営火長「点火」

親火：頂上の一本に火をつける。

3 ともしびに捧げることば

「親火の方は、ともしびにささげることばをお願いします。」

親火のことば

「わたしたち（ ）の（ ）人は、ここ霧島自然ふれあいセンターにおいて、ともしびのつどいを開くことができ、うれしく思います。ひとつ屋根の下で共に語り、共に寝起きする中で、今まで気付かなかった友達のすばらしい姿を発見し、自分の姿を見直しながら、さらに、友情を深めたいと思います。今夜は、仲良く、楽しく心に残るつどいにし、これを機会に明日からの生活に役立てることを誓い、ともしびにささげることばとします。」

令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

4 誓いのことば

「親火の方は、子火に呼びかけて、ともしびを分けてあげてください。」

親火 「強い心と体の持ち主になるために」

子火1 「わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。」

親火 「豊かな心の持ち主になるために」

子火2 「わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。」

親火 「いつまでも変わらない友情のために」

子火3 「わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。」

親火 「一日一日に全力を尽くすために」

子火4 「わたしたちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。」

5 燭台へ点火

「係の方は、全員で燭台のろうそくに点火してください。」

6 迎え火のことば

「営火長は、迎え火のことばをお願いします。」

営火長のことば

「燭台のともしびは、わたしたちに何かを語りかけているようです。何かを求めているようです。このセンターでの生活を通して、皆さん一人一人が、これまでの自分、これからの自分を考えようとしていることでしょう。ここでの生活の中で、あらためて人の和の大切さや尊さを見つめることと思います。そして、このともしびのつどいの中で、自分をさらに見つめることにし、迎え火のことばとします。」

7 分火

「それでは、このともしびを周りにいる皆さんにも分けてあげましょう。営火長、親火、子火の皆さんは、自分の近くの人にともしびを分けてください。また、周りの皆さんも、もらったともしびを、周りの人に分けてあげましょう。みなさん立ってください。」

8 司会者からのよびかけ

「一本の小さな親火から、今（ ）本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪をつくっている小さなともしび、これは人間だけが使うことのできる火です。わたしたちの祖先がはるか昔から絶えることなく、大切に守り続けてきた火です。文化の火ともいえるともしびです。そのともしびを目の高さまで上げて、じっと見つめてみましょう。今ごろはきっとみなさんの家族が、あなたのことを考えていることでしょうか。友達と仲良くできているだろうか。けがはしていないだろうか。病気はしていないだろうか。みなさんはそのような家族の気持ちを理解できるでしょうか。

今まで、わがまを言って困らせたり、口ごたえをしたりしたことはなかったでしょうか。家族に対して今まで自分はどうかであったか。今しばらく考えてみましょう。自分の身をすり減らしながら、周りを温かく、明るく照らすろうそくは、子どもを育てる親の姿に似てはいないでしょうか。

子どものために尽くしながら、一日一日歳を重ねていく親を大切にする、思いやりのある子どもであって欲しいと思います。親のことを考えるとき、人の心は最も素直になると言われます。その気持ちを心の奥深くしまう意味で静かに、ともしびを消してください。」

「これで迎え火の式を終わります。」

※ 出し物等で広くホールを使う場合は、燭台の火を消し、プレイホールのすみに移動する。

<第2部 交歓のつどい>

「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

※ 第3部の前に燭台を中央に移動し、ろうそくに火をつける。

<第3部 送り火のつどい>

1 送り火のことば

「ただ今から第3部『送り火の式』を始めます。」

「営火長は、送り火のことばをお願いします。」

営火長のことば

「楽しかったつどいも、いよいよ終わりの時がやってきました。静かな中に自分を見つめたり、生活の反省をしたりしました。このつどいで深められた友情と感動をいつまでもよい思い出として、明日からの生活にいかしていくことを期待し、送り火のことばとします。」

2 納火

「係の方は、燭台の最上段の一本を残して、他のともしびを消してください。」

3 司会者からの呼びかけ

「ホール内に広がったともしびは、今、私たち全員の心をまとめて中央の燭台の1本にかえり、一段と輝きを増したかのようです。このともしびのように、仲良く団結して、それぞれの目標に向かって、挑戦のともしびを燃やし続けていきましょう。そして、ここ霧島自然ふれあいセンターで、体験を通して学んだことを生かし、学校や家庭、地域をともしびのように明るく温かく照らせる一人ひとりになっていきましょう。」

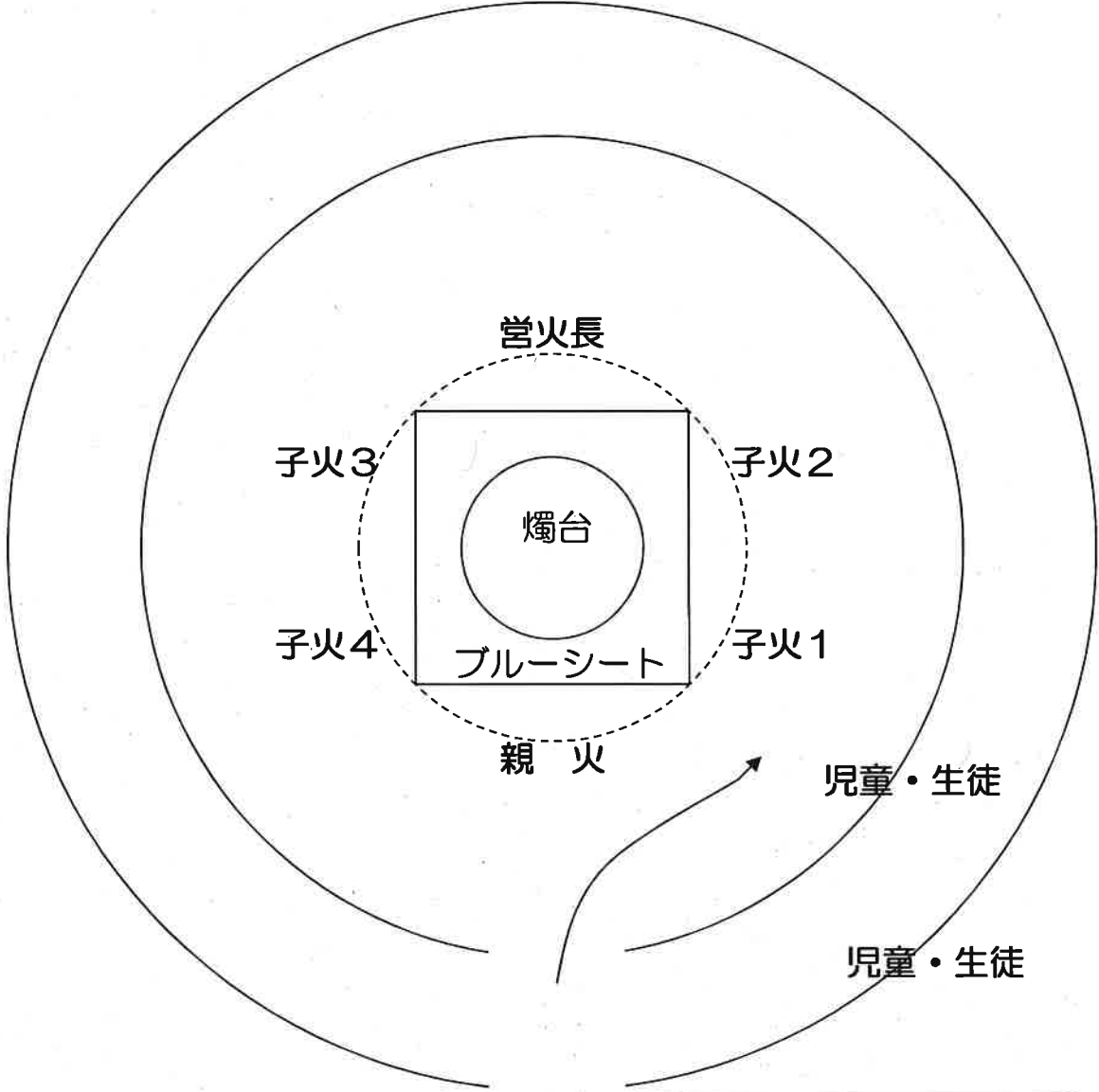
「親火の方は、最後の一本のともしびを消してください。」

4 閉会のことば

「以上で（ ）のともしびのつどいのすべてを終わります。」

入場時会場図および係員入場方法

ステージ



係員入場までドアを閉めて
待機する。
親火だけ点火しておく。

この位置より入る。
親火→子火4→子火3→
営火長→子火2→子火1の順に
反時計回りに入っていく。

器具庫 1

入口

ともしびのつどい台本（子火用）

親 火 強い心と体の持ち主になるために

子火1 わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。

親 火 豊かな心の持ち主になるために

子火2 わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。

親 火 いつまでも変わらない友情のために

子火3 わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合^{はげ}っていくことを誓います。

親 火 一日一日に全力を尽くすために

子火4 わたしたちは、一日一日を反省し、明^{あす}日に向かって全力を尽くし、悔^くいのない毎日を過ごすように努めます。

ともしびのつどい台本（営火長用）

営火長（点火の合図）

「点火」

営火長（迎え火のことば）

「^{しよくだい}燭台のともしびは、わたしたちに何かを語りかけているようです。何かを求めているようです。このセンターでの生活を通して、皆さん一人一人が、これまでの自分、これからの自分を考えようとしていることでしょう。ここでの生活の中で、あらためて人の和の大切さや^{とうと}尊さを見つけることと思います。そして、このともしびのつどいの中で、自分をさらにみつめることにし、迎え火のことばとします。」

営火長（送り火のことば）

「楽しかったつどいも、いよいよ終わりの時がやってきました。静かな中に自分を見つめたり、生活の反省をしたりしました。このつどいで深められた友情と感動をいつまでもよい思い出として、明日からの生活にいかしていくことを期待し、送り火のことばとします。」

ともしびのつどい台本（親火用）

営火長（点火の合図）→ 《親火：頂上の本一本につける。》

親火（ともしびにささげることば）

「わたしたち（ ）の（ ）人は、ここ霧島自然ふれあいセンターにおいて、ともしびのつどいを開くことができ、うれしく思います。ひとつ屋根の下で共に語り、共に寝起きする中で、今まで気づかなかった友達のすばらしい姿を発見し、自分の姿を見直しながら、さらに、友情を深めたいと思います。今夜は、仲良く、楽しく心に残るつどいにし、これを機会に明日からの生活に役立てることを誓い、ともしびにささげることばとします。」

令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

親火→子火（誓いのことば）

親 火 強い心と体の持ち主になるために

子火1 わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。

親 火 豊かな心の持ち主になるために

子火2 わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。

親 火 いつまでも変わらない友情のために

子火3 わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。

親 火 一日一日に全力を尽くすために

子火4 わたしたちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。

ともしびのつどい台本（進行用）

<第1部 迎え火のつどい>

※ 参加者入場

1 開会のことば（CDデッキスイッチONしてから～「遠き山に日は落ちて～」）

「ただいまから、（ ）のともしびのつどいを始めます。」

2 営火入場

「営火入場」 親火，子火4，子火3，営火長，子火2，子火1の順

「営火長は，点火の合図をお願いします。」 営火長「点火」

親火：頂上の一本に火をつける。

3 ともしびに捧げることば

「親火の方は，ともしびにささげることばをお願いします。」

親火のことば 「わたしたち～とします。」 令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

4 誓いのことば

「親火の方は，子火に呼びかけて，ともしびを分けてあげてください。」

親火と子火の誓いのことば 親火→子火1→親火→子火2→親火→子火3→親火→子火4

5 燭台へ点火

「係の方は，全員で燭台のろうそくに点火してください。」

6 迎え火のことば

「営火長は，迎え火のことばをお願いします。」

営火長のことば 「燭台のともしびは，～迎え火のことばとします。」

7 分火

「それでは，このともしびを周りにいる皆さんにも分けてあげましょう。営火長，親火，子火の皆さんは，自分の近くの人にともし

びを分けてください。また、周りの皆さんも、もらったともしびを、周りの人に分けてあげましょう。みなさん立ってください。」

8 司会者からのよびかけ

「一本の小さな親火から、今（ ）本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪をつくっている小さなともしび、これは人間だけが使うことのできる火です。わたしたちの祖先がはるか昔から絶えることのなく、大切に守り続けてきた火です。文化の火ともいえるともしびです。

そのともしびを目の高さまで上げて、じっと見つめてみましょう。今ごろはきっとみなさんの家族が、あなたのことを考えていることでしょうか。友達と仲良くできているだろうか。けがはしていないだろうか。病気はしていないだろうか。みなさんはそのような家族の気持ちを理解できるでしょうか。

今まで、わがままを言って困らせたり、口ごたえをしたりしたことはなかったでしょうか。家族に対して今まで自分はどうであったか。今しばらく考えてみましょう。自分の身をすり減らしながら、周りを温かく、明るく照らすろうそくは、子どもを育てる親の姿に似てはいないでしょうか。

子どものために尽くしながら、一日一日歳を重ねていく親を大切にする、思いやりのある子どもであって欲しいと思います。親の

ことを考えるとき、人の心は最も素直になると言われます。その気持ちを心の奥深くしまう意味で静かに、ともしびを消してください。」

「これで迎え火の式を終わります。」

※ 出し物等で広くホールを使う場合は、燭台の火を消し、プレイホールのすみに移動する。

<第2部 交歓のつどい>

「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

※ 第3部の前に燭台を中央に移動し、ろうそくに火をつける。

<第3部 送り火のつどい>

1 送り火のことば

「ただ今から第3部『送り火の式』を始めます。」

「営火長は、送り火のことばをお願いします。」

営火長のことば 「楽しかったつどいも～送り火のことばとします。」

2 納火

「係の方は、燭台の最上段の一本を残して、他のともしびを消してください。」

3 司会者からよびかけ

「ホール内に広がったともしびは、今、私たち全員の心をまとめて中央の燭台の1本にかえり、一段と輝きを増したかのようです。このともしびのように、仲良く団結して、それぞれの目標に向かって、挑戦のともしびを燃やし続けていきましょう。そして、ここ霧島自然ふれあいセンターで、体験を通して学んだことを生かし、学校や家庭、地域をともしびのように明るく温かく照らせる一人ひとりになっていきましょう。」

「親火の方は、最後の一本のともしびを消してください。」

4 閉会のことば

「以上で（ ）のともしびのつどいのすべてを終わります。」